

提出いただいた追加意見

本研究開発について評価の論点とすべき事項・内容	第1回評価検討会 資料1 - 1の2 . の各調査・検討項目に沿ったご意見	その他
<p>財政支出としてではなく、国に直接・間接的に利益が循環する財政投資になる実証テストのビジネス・モデルとなる様、事業モデルを練る必要がある。</p>	<p>A . 科学技術上の意義 B . 社会・経済上の意義 左記 とからみ、財政支出モデルでは社会・経済上の意義が弱い。財政投資的なモデルの事業に設計し直したら社会・経済上の意義は高まる。 C . 国際関係上の意義 D . 計画の妥当性 従来の個人向けの補助金での普及は効果は出たが、もう市場にませられないか？。今までの単なる延長の計画は妥当とは考えられない。左記 と B . のモデルの工夫をすれば妥当となるう。 E . 成果（見込み）運営等</p>	
<p>やはり研究開発予算を使う以上、単なる補助金として以上のフィールドテストを通じての実働条件下でのデータ、経時的変化に関するデータなどの収集およびその解釈による太陽エネルギー利用技術の向上へのフィードバックなど研究対象となる余地は多分にあると思う。 これらの視点を含め、本フィールドテストの研究開発活動としての意味について検討する必要があると感じる。</p>	<p>A . 科学技術上の意義 今回の説明を聞くかぎり、新技術などへの配分が見えなくはっきりした評価は難しいが、普及促進へ向けたコスト低減のための新デバイス開発、新用途開拓へ向けたデータ収集などを含めてほしい。 B . 社会・経済上の意義 量産効果の大きなプロセス製品であるので、導入促進による生産量増大によるコストダウンが新たな導入を誘発するという効果が期待できるので、日本産業界の競争力向上のためには有効なアプローチだと考えられる。 C . 国際関係上の意義 開発途上国における分散型エネルギー供給システムとして有益なものと考えられるので、有意義なものと考えられる。 D . 計画の妥当性 現段階では具体的なコメントできる段階にいたっていない。 E . 成果（見込み）運営等 現段階では具体的なコメントできる段階にいたっていない。</p>	

<p>右記 で具体的に記述した。</p>	<p>A. 科学技術上の意義 科学技術上の意義は小さいように思われる。</p> <p>B. 社会・経済上の意義 太陽電池 (PV) の普及を支援することにより当該技術の完全自立に資することになり、これによって将来は補助金なしで PV が市場導入されるようになれば、CO2 削減、エネルギーセキュリティの向上と共に経済効果も期待できるはずである。しかしながら、これには普及量と PV コストの間の習熟曲線に基づく定量的な普及戦略がなければならずこの点の検討が不十分である。</p> <p>C. 国際関係上の意義 上記のように、国産の PV 新技術が自立すれば、現在世界のトップ水準にあるわが国の国際競争上もさらに有利になると考えられるが、上記 B と同様の理由で検討が不十分である。</p> <p>D. 計画の妥当性 新技術としての科学技術上の意義が小さい以上、普及戦略としての意味合いが強いと思われるが、そう考えた場合には、上記の問題以外に以下の点が問題である。すなわち、抽選などでそれなりの公平性を担保できる住宅用太陽電池と異なり特定の事業者に補助金を与えるということの公平性・妥当性の検討が必要である。</p> <p>E. 成果 (見込み) 運営等 上記のように定量的な普及戦略の検討が不十分であるため、定量的成果も推定困難となる。</p>	
<p>これまでの FT 事業の市場開拓効果の定量的な評価、および 今後の太陽エネルギー利用の普及促進に向けて、単なる費用負担を超えた戦略が事業計画に盛り込まれているかどうか。</p>	<p>A. 科学技術上の意義 B. 社会・経済上の意義 C. 国際関係上の意義 D. 計画の妥当性 E. 成果 (見込み) 運営等</p>	<p>これまでの FT 事業がもたらした市場開拓効果は (太陽エネルギーに関する啓蒙も含めて) 非常に大きいものがあると認識していますが、現時点で自立した普及を実現できる段階にはまだ達していないと考えられます。新エネルギー導入目標達成に向けて、適切かつ効果的な形で事業継続を実施する必要があると考えられます。</p>

<p>国の資金を使ってやるべき事業として妥当か。 フィールドテストの目的と内容（評価のポイント）は適切か。 太陽光発電と太陽熱発電両制度の統合は妥当か。</p>	<p>A. 科学技術上の意義 B. 社会・経済上の意義 C. 国際関係上の意義 D. 計画の妥当性 E. 成果（見込み）運営等</p>	
<p>太陽電池補助金は普及、コストダウン、技術革新のよい回転を導き、我が国の普及率の拡大に重要な役割を演じてきた。そして現在では民間が市場経済を通じて普及がさらに拡大し、温暖化ガス削減の有効なシードを作ったといえる。しかし、今後とも同種の補助金の役割があるとは必ずしもいえない。ただ、温暖化ガス削減対策の一つとして工夫の余地がある。つまり、経常補助金というやり方から新たな社会資本形成として、国有地、国有建物に設置し、電力量の予算削減を同時に行うような方針変更をすれば社会的実験として大変興味深い。</p>	<p>A. 科学技術上の意義 昔はあったが現在ではどうか疑わしい。 B. 社会・経済上の意義 もし、新たな社会資本形成という方針変更を伴えば有意義。 C. 国際関係上の意義 化石エネルギーの削減、CO2問題に利する。 D. 計画の妥当性 ヒアリングでの計画案では現在では先端技術とはいえ、いったんなくなった経常補助金を延長するにすぎない。 E. 成果（見込み）運営等</p>	<p>オフィスのピークロード需要をまかなうために、化石燃料は多く使われる。送電ロス等を考えると、最適な発電場所は皇居の建物、官邸、役所の建物といえる。「隗より始めよ」である。</p>
<p>研究開発成果の普及事業としての位置づけ 公的資金の支出と公的メリット 本事業の公的メリット</p>	<p>A. 科学技術上の意義 B. 社会・経済上の意義 C. 国際関係上の意義 D. 計画の妥当性 E. 成果（見込み）運営等</p>	
<p>導入普及が主眼のプロジェクトに見えるので、導入普及にいかに関与するかの観点が重要と考える。とすれば、議論・評価は、資料2 - 1のp. 12の予測が成立するか、本事業がこの予測にいかに関与付けられるかがポイントと考える。</p>	<p>A. 科学技術上の意義 現段階ではフィールドテストとしての科学技術上の意義は必ずしも明確でない。 B. 社会・経済上の意義 左記 観点からの説明が再度必要だが、グリーン電力基金の低下傾向を見ると意義はあると考えられる。 C. 国際関係上の意義 生産量としてはトップにある我が国がリードすべき技術と考える。 D. 計画の妥当性 左記 の説明を待ちたい。 E. 成果（見込み）運営等 左記 の説明を待ちたい。</p>	

追加説明依頼事項は、資料2に集約。